こどもと関わっている大人のみなさまへ

こどもには、「みなさんと同じように」一人の人として様々な「権利」があります。
こどもと関わっている大人のみなさん、こどもから元気をもらったり、かわいいと思うだけでなく、言うことを聞かない、反抗的、自分を傷つけるなど大変なこともたくさんあると思います。
こんなとき、こどもに適切な行動を教えるのって難しいですよね。いくら「しつけ」の範囲だと思っていても、こどもに危害を加える行為(例：叩く、モノを投げる、外へ締め出す、プライベートゾーンを触る)だけでなく、適切なお世話をしない(例：食事を与えない、不衛生な環境での生活、治療が必要なのに病院を受診させない)ことも、法律上「虐待」になります（こどもの権利侵害）。
こどもは一人の人(あなたとは違う人格)と認め、尊重すること（同じ目線で対話する）が大切です。



STEP 1 ステップ 1 こどもの話を聴いて、一旦、受け止めましょう

まずは、こどもがどんなことを思っているのか、どんな風に感じているのか、どんな気持ちなのかをしっかりと真剣に「聴く」ことから始めてみませんか。
そしてこどもの気持ちに共感し、よい行動も悪い行動も含めてその行動をしたときの気持ちを受けとめましょう。
そのうえで、間違った行動は間違っていると伝え、そんなときはどんな行動をとったらよかったのか、一緒に考え、教え、練習してみましょう。



STEP 2 ステップ 2 こどものよいところを見つけて、伝えましょう

日ごろから、こどもの「よいところ」や「できるようになったところ」を見つけるように心がけましょう。
それを見つけたら、すぐに、どんなところがよかったのか具体的に伝えましょう。

